

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 9 月 14 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502983		
法人名	有限会社 ピュア・ハート		
事業所名	グループホーム春里		
所在地	広島県福山市新市町戸手657番地1 (電話) 0847-52-5426		
自己評価作成日	平成28年8月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471502983-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471502983-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年8月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気大切に、安心して過ごして頂けるようにしています。  
尊厳の有る声掛けを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

今年で開設15年目を迎える施設である。法人理念の下、事業所理念を策定し、春里モットー『あんしん・ゆったり・いっしょに・たのしく』の実現に向けて支援している。職員の8割が国家資格（看護師・介護福祉士）を有し、在籍3年～12年のベテラン職員が支援にあたっている。利用者及び職員は、この地域の方が殆どで、利用前から顔見知りの関係にある方もおられ、方言をまじえた対応で、利用者の穏やかな生活を支えている。薬剤管理も徹底しており、利用者の薬剤は金庫にて管理されている。各ユニット管理者が定期的に、個別に一ヶ月分を仕分けているため、誤薬等の事故は起こっていない。又、医療面に於いても、2名の看護師が在籍、提携医も近隣におられ、24時間対応できる体制が出来ており、利用者・家族にとっては安心の施設である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。</p>	<p>申し送り、ミーティング等で話し合い、一人ひとりに合わせた取り組みを行っている。</p>	<p>法人理念の下、事業所理念を策定し、春里モットー『あんしん・ゆったり・いっしょに・たのしく』を実現するため、個々の利用者の抱える問題点をミーティングで検討し、一人ひとりに合わせた取り組みがされている。又、管理者会議で、1年間の月別目標を設定している。</p>	<p>職員は個人目標を設定し、進捗管理もされているが、理念の実現に向けた設定になっていない。今後、事業所理念、春里モットーを実現するための個人目標とし、職員がより理念の共有ができる取り組みを期待します。</p>
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>地域への行事(公民館祭、ふれあい祭)への参加、小学生・ボランティアの受け入れ、チャレンジウィーク(中学生)の受け入れ、春里祭りでの地域との交流、季節ごとの行事(冬至会)への招待、地域の溝掃除等の交流をしている。</p>	<p>町内会にも加入されており、地域の行事、地域の溝掃除などにも積極的に参加されている。又、施設行事(春里祭り・冬至会)の案内を地域に幅広くされ、春里祭りには家族や地域の方の参加が200人余りと、地域に根付いた催しとなっている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>運営推進会議、家族会の案内、声掛けなど行ったが、地域の人の参加は頂けなかった。</p>	/	/
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議で、おおはホームの現状(利用者人数、平均介護度、平均年齢など)及び、行事・利用者のホーム内での様子についての報告を行い、また、勉強会ではグループワーク等を行い、参加者の意見を聞き、グループホーム内で反映している。</p>	<p>運営推進会議は、家族会・研修会を同時開催して、利用者・家族に参加しやすい工夫をされている。又、市町職員及び地域包括支援センター職員・民生委員・地域代表も参加され意見を運営に反映されている。</p>	<p>運営推進会議は、敷地内の同法人事業所と合同で行われているため議事録の内容が分かり辛い。今後、運営推進会議を行われる場合、議事録の作成が容易にできるよう工夫されることを望みます。</p>
5	4	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>地域連絡会議や地域での勉強会に出席し、各事業所のみならず、地域全体でのサービスの向上に取り組んでいる。</p>	<p>同業者の地域連絡会議等で、勉強会や会議を定期的に支所会議室で行っている。その際の市町職員との交流機会を有効に利用して、相談等を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束をしないケアについては、勉強会を行い、職員に周知している。日常での言葉（声かけ）や態度で気になる点があれば、その都度、リーダー及び職員間で、注意し合って改善に努めている。</p>	<p>法人内研修が毎月実施されており、身体拘束しないケア・権利擁護・接遇に係る研修が行われている。日常の関わりの中で、声掛け（方言なまり）などで親近感を持つ一方、行き過ぎた言葉声掛けがある場合、職員間及び管理者が、注意し合って改善に努められている。玄関は、日中は施錠せず、センサーを利用した見守りを行っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止については全職員で学び、研修があれば必ず1人は行くようにしている。職員個人のファイル内に虐待・拘束の勉強に携わる事は用意しており、見返す事が容易なようにしてある。防止にも努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護、成年後見制度の勉強会は、全員に徹底するよう、全体ミーティング及び運営推進会議にて行った。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約内容の把握が困難であった場合、内容とは別に要約したものも使用し、理解促進や納得いただけるような働きかけをしている。又後日でも、不明な事があれば尋ねて頂ける様伝えている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>定期的に来所される家族も多く、来所時に利用者さん家族の意見・要望を聞いて、日常のケアに活かすようにしている。</p>	<p>年間5回の家族会が開催され、利用者と家族と一緒に過ごせる機会を提供している。家族会や家族の面会時に、日常ケアの問題点や症状を報告し、改善対応の糸口となる情報を収集し、支援に活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のミーティング時以外にも、個人毎に聞いたり提案したりしている。またそれを実施に向け、取り組んでいる。</p>	<p>年2回、個人面談が行なわれ、職員の意見や提案が多数出ている。提案は迅速に精査し、実現できるものは、その都度運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>個人面談は基より、職員の態度や表情等に変化ある時は、随時声掛けや話を聞く機会を設けている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員のキャリアに応じての研修参加の推奨や必要と思われる研修への支援、希望する研修への参加支援等行なっている。又、勤務内での育成講習も随時行なっている。（介護技術、声掛け等）</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>タウンミーティングや各種研修・勉強会及びスタッフ交流会（年1回程度、同業者（GH）との食事会）等を通じ、サービスの質の向上を図っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>事前面談や家族・ケアマネジャー・サマリーからの情報を基に、利用後も関わりながら情報を得て、安心して生活して頂ける様に努めている。利用されてからも、様子・状態をスタッフ間で情報交換し、不明な点等ご家族に確認し、出来るだけ早く新しい生活に慣れて頂くよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族が来所されることが多く、その都度、要望を聴き、グループホーム側からもわからない部分は、日頃の様子を伝え、意見交換し、より良いケアが出来る様に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>当グループホームを利用の希望があった場合でも、必要か否かを見て、他事業所や他サービスを勧めたりしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>家族の様に話をしたり、入居者から分からないこと等、人生経験を通しての指導をしてもらったり等の交流が来ている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>各利用者の家族の来所は、比較的多く、親子での交流、会話をよくされたり、受診等、家族側から積極的に協力して頂いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>馴染みの人（地域の知り合い）と地域の敬老会・催しなどにお連れし、あいさつ・会話でき、つながりの継続に努めている。</p>	<p>利用者は、事業所の近隣地域の方が多いため、友人、知人の面会も多い。又、地域の催事（敬老会・その他）などへ参加し、顔見知りの方と挨拶、会話などできるように、地域との繋がりを大切に支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共通の楽しみから、会話して頂いたり、利用者同士のコミュニケーションが難しい場合、各々の性格・相性を把握し、スタッフが間に入り、良好な関係が築ける様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホーム退去後も、気軽に来て頂ける様な関係を保っている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向の把握に努めており、希望を交えたご本人の思いを、その都度に検討している。ご本人からの意思が全く聴けない（疾病等により）場合には、ご家族との相談を行い、ご本人が望むであろう事についても、把握に努め支援している。	利用者の思いや嗜好を把握することで、利用者が楽しく穏やかな生活が送れるよう、職員は問題意識を持って支援にあたっている。困難な場合には、家族や知人、友人が面会に来られた時に情報を得て、家族と相談しながら、本人が望むであろう事について支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前に話を伺う以外に、利用後もご本人・ご家族との会話で、ケアに向けてのバックグラウンド作りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ユニット職員間で、問題点やその人の状態面・現状等を把握し、アセスメント表やカンファレンス、申送り（連絡ノート・個人ノート）で、ケアマネジメントに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人の希望や状態、現状を把握し、家族の訪問時等には、意向を聴いている。3か月に1度のモニタリングや、前回のプランの評価を基にカンファレンスを行い、介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画のアセスメントは、利用者別に担当者が実施している。モニタリングは3ヶ月ごとに実施し、介護計画は有効期限に関わらず6か月ごとに作成している。利用者・家族の意向を出来る限り反映できるよう、家族会や家族面会時に聴き合わせを行い、現状に即した介護計画の作成に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録は基より、ご本人の個別ノートで疾病や薬の変更等を記載し、見直し時に活用できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>急な利用の受入れなど（当日利用申込み）にも、柔軟に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>民生委員・ボランティア・公民館等にご協力頂き、グループホーム内外での行事への参加や、消防署の方には避難訓練などで指導を頂いている。また、本人の意向により、地域での外食を行なっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>必要時のかかりつけ医以外の受診対応や、往診対応等、家族・かかりつけ医・看護師と話し合い、その都度その方に必要な支援をしている。本人の精神的な面で、かかりつけ医が2か所ある方もいる。</p>	<p>かかりつけ医について、利用者・家族の意向を大切にされ、かかりつけ医と提携医が重複される場合もある。提携医は事業所の近隣にあり、24時間の対応ができるため、利用者家族にとっては安心である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	看護職員や協力医療機関の看護師に、随時相談しながら、その時々に適した健康管理や医療への支援を行なっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入退院時の連携はもちろんの事、情報交換や相談等も随時行っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	利用開始時にアンケートを取り、説明している。重度化した場合は、家族から希望を細かく伺い、家族の同意書・了解のもとでプランに盛り込み、主治医・全職員で支援に取り組んでいる。	利用時に、終末期に向けた指針について家族に説明している。利用者・家族の希望に沿って、近隣の24時間対応の提携医及び2名の看護師が在籍していることで、医療的処置が可能である。重度化した場合は、家族・主治医・看護師・職員と、チームで支援できる体制が出来ている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	応急手当・心肺蘇生・AED使用等、定期的に勉強会を行ない、訓練している。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	出火場所を変えたり、日勤帯、夜勤帯と想定時間を変え、年2回の避難訓練を行っている。	年間2回、昼、夜間想定で行っている。そのうち1回は、近隣にある消防署の立合いを依頼して行われ、消防署から火災避難に係るアドバイスを頂き、訓練の精度を上げている。	火災避難訓練時の、近隣住民の参加が出来ていない。研修会（救命救急研修）や消防署立合いの火災避難訓練時に、近隣住民の参加を今迄以上に促し、地域ぐるみでの火災避難訓練ができる取り組みを期待します。



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛け等は、プライバシーが保てるよう各職員が留意している。 個人情報の取り扱いについても、同様である。	常に、利用者の尊厳が保てる声掛けを意識しながら支援に努めている。一部のトイレが狭く、車椅子での介助が難しい場合は、トイレの出入口につい立を置くなど工夫して、利用者の尊厳や誇りを損ねないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話ができる方に関しては、思いや希望を出せるよう働きかけ、自己決定の支援をしている自ら話が出来ない方に関しては、ご家族と協力して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、臥床、食事、家事手伝、レクリエーション行事等を、その人のペースや心身状態に合せ、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみや、おしゃれは支援している。 本人が望めば、希望の理容・美容院へ行く支援が出来る。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方には、料理の下手間や、行事としておやつ作りを手伝ってもらっている。好み等も把握し、提供している。	介護度が上がるにつれて、料理や配膳の手伝いをしていただくことが少なくなってきたが、おやつ作りを、出来る範囲で一緒に出来るように工夫している。機会があるごとに、食べたいものを利用者に聴き、メニューに反映できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分確保の為、4回/日の水分摂取（食事時外）を励行して、水分拒否のある方は、その方の気分に合わせ、容器の工夫や配分及び飲み物の種類の変更などで対応している。又、拒否や身体状況によって水分が少ない時は、協力医の点滴にて、随時対応している。食事も同様である。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔状態やご本人の力量に応じ、用具も使用し、支援している。状態に応じ、歯科医の往診による口腔ケアをしている。（現在、往診2名）専門的な治療が必要な場合は、ご家族と相談し、治療につなげている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各利用者の排泄パターンを把握して、トイレ誘導・マット交換を行っている。その際、自尊心を損なわないように配慮している。	出来る限り、リビングのトイレ使用を原則にしている。利用者の排泄パターンを把握し、適時トイレ誘導を行い、利用前はオムツ・リハビリパンツであった利用者が、布パンツ+パットに移行した実績も多くあり、自立に向けた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	原因や影響等の理解ができており、対応の為の飲食物（ヨーグルトなど）、体を動かすことで、なるべく下剤に頼らない方向に変更する努力、その他の工夫を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	2～3日に1回、午前・午後の入浴となっている。利用者の希望や体調によって、個別に柔軟に対応している。入浴を拒む方には、声掛け、浴室内の小物を工夫したり、タイミングを見ながら支援し、清潔保持に努めている。	週2～3回のペースで、利用者の意向に沿った時間に入浴がされている。入浴を嫌がる利用者への対応例として、家族からの情報収集や利用者の発言から、浴室の小物の色をピンクで揃えることで、入浴拒否を解消した例がある。個々の利用者の生活習慣を把握しながら支援に努めている。又、月間のスローガンで、「入浴しよう」の日を作り、フロアに張り紙をし、利用者の入浴を促す取り組みがされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>就寝時間は本人の意思を尊重す るが、その時の状況に応じ安眠 できるよう支援している。 休息はその人のペースや身体状 態に応じた支援をしている。午 後からの臥床も取り入れ、気分 転換も行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>服薬支援（服薬拒否も含む）と 症状変化の確認に努めており、 薬の目的・効能等、一覧にし、 確認、理解しやすいようにし ている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>ご家族にも、生活歴や好きだっ たこと等尋ねながら、その人に 合った役割を担って貰い、支 援している。 レクリエーションや行事等で、 気分転換に向け、支援をしてい る。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>誕生日には、気分転換に外食を 行っている。 天候の良い日に、スタッフが順 番で、利用者と共に近所を散歩 している。</p>	<p>四季に応じて、ドライブや花見 などの外出をしたり、買いたい もの、食べたいもの等利用者か らの希望があれば、一緒に近く のスーパーへ買い物に出掛けて いる。誕生日には、本人の希望 に沿って、外食に出掛けている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>お金を持っている方もおられる が、持っていない場合でも、立 替で買い物が出る様、支援して いる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご自身で操作が可能な方は、自ら電話をしたり、ご家族からの電話で話しをされたりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>壁面や各居室入り口に、季節の飾り付けや行事の写真、ご利用者の作品等を展示し、生活感の溢れた居心地良い雰囲気作りに努めている。リビングの照明は、場所ごとに点灯するので、光の強度を落とすことも出来る。</p>	<p>リビング内は季節に応じて、利用者の作品や行事の時の写真が展示されている。車椅子の利用者が多いため、動線は広めにとられ、動き易い配置になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>天気の良い日には、デッキにての日向ぼっこや、共用スペースのフロアーには座りやすいソファがあり、ゆっくり出来るよう工夫したり、気分転換に違う階に行ったり等、過しやすい工夫をしている。また、安否確認をしながら、各々の居室で自由に昼寝、テレビ（私物）を観て過ごしたり、なるべく束縛のないように対応している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>各居室内には、日常の生活の中で見られた笑顔の写真・真剣にものごとに取り組んでいる写真等を貼ったり、テレビ等で各々がリラックスできる空間づくりをしている。</p>	<p>居室内への持込みは自由である。馴染みの家具や身の回りのものを持ちこんでいただくことで、利用者が穏やかに生活ができる旨を家族に説明し、理解して頂いている。家族の写真や趣味の作品等が置かれ、本人が落ち着いた生活が送れるような配慮がされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレには、分かりやすいように札を貼り、各居室にも名札を表示し、扉にも自分で確認できるよう張り紙をして、混乱を防いでいる。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 : グループホーム春里

作成日 : 平成28年10月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議のあり方	ホームの状況等を知って頂くため、ヒヤリハット、事故報告書等を議題に取り入れながら、意見交換の際には小規模と別々に行う。議事録も郵送する	意見交換の際、小規模と別の部屋で話し合う請求書と一緒に議事録を郵送する	2017年～
2	1	個人の年間目標がただの個人目標になっている	理念の実現に向けた目標にする	12月に職員に来年の目標を記入する用紙を配布する。その際、(理念と関連した)目標を立ててもらおうよう説明する	2016. 12～
3	35	避難訓練に地域住民の参加がない	年2回の内1回は地域の方に参加して頂く	地域の方へ声をかけたがり案内を配布する	7か月
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。